



広報 **たはら**

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

2016
平成28年

3.15

彩り豊かに
私の未来!

目次

広報たはらが変わります	2
今月の花「レイコのコレいね」	
地域の話題	
スクールレポート	
学校生活の一コマを紹介	6
たはらシティニュース	7
連載コーナー	8
おしらせ	10
歴史探訪クラブ	12

4月号から

広報たはらが変わります



広報たはらをより読みやすくし、もっともっと多くの方に手に取ってもらうため、4月号から紙面を刷新します。

市民の皆さんから寄せられる声を反映し、読みやすい文字を採用するほか、必要な方に必要な情報が届くよう、対象者別にお知らせを集めたページを設けます。これに合わせ、デザインを一新して情報を集約し、発行を月1回とします。また、市民の皆さんからの投稿コーナーも拡充しますので、ぜひ、紙面づくりにご参加ください。

広報たはらは、これからも市民の皆さんに親しまれる広報紙を目指してまいりますので、ご意見・ご感想など、お気軽にお寄せください。

▶ 広報秘書課 ☎ 22局0138 ☒ koho@city.tahara.aichi.jp

2 読みやすい文字 を使います

「字が読みづらい」という意見にお応えし、誰にでも読みやすい「ユニバーサルデザイン（UD）書体」を使用します。この書体を使うと同じ文字の大きさでも、より読みやすくなります。

3 対象者別 にお知らせします

子育て世代向け、高齢者向けページを設けるほか、健康に関するお知らせも集約し、「必要な方が必要な情報を得やすく」します。



1 投稿コーナー を拡充します

広報紙に親しみを持ってもらえるように、投稿コーナーを拡充します。みんなに注目してもらいたい情報やお子さんの笑顔の写真、ペットの写真などを募集しています。あなたの投稿作品をお待ちしています。



※投稿方法などは、10頁をご覧ください。右のQRコードにて、市ホームページへアクセスしてください。



5

スマートフォンで 広報たはらが読めます

無料アプリ「i 広報紙」による広報たはらの配信を始めます。

スマートフォンやタブレット端末でアプリをダウンロードし、「お住まいの地域」など簡単な設定を行えば、広報たはらの発行に合わせて通知が届きます。

移動中など、ちょっとした空き時間でもご覧になれます。



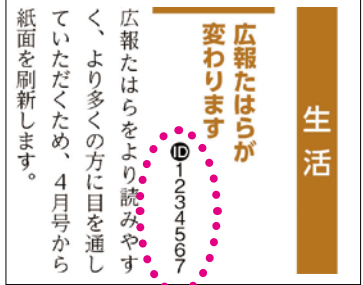
※通信料は利用者の負担となります。詳しくは、右のQRコードにてi 広報紙ホームページへアクセスしてください。



4

市ホームページ と連携します

広報たはらの記事に「ページID」が付きます。市ホームページのトップ画面で検索すると、関連ページや詳細ページへ直接、移動することができます。



▲広報たはらの記事に付くページIDの例



◀市ホームページでのページID検索画面(4月1日～)

今月の花

レイトのコレいいね 21

▶農政課 ☎23局3517

◎フラワーバレンタインイベント



▲【左上】豊橋駅での花の配布【左下】三河田原駅のPRコーナー【右】蔵王山展望台のフォトスポット

田原市はバレンタインに花を贈るフラワーバレンタインの普及に取り組んでいます。田原市・豊橋市・豊川市の3市合同による花のPRイベントとして、豊橋駅で花を配布しました。

2/13(土)には、蔵王山展望台でPRイベントを行いました。蔵王山展望台と三河田原駅に設置したフォトスポットで写真を撮影された方に、田原市産の花をプレゼントしました。

花を贈ることによって笑顔が生まれることを改めて感じることができ、これをきっかけに、身近な方へ花を贈る習慣が広がってほしいと思います。



3月の 渥美半島の花と鉢花



スイートピー
(花/出荷時期:10月～3月)

花ことば
別離、門出

花言葉から卒業式などによく使われる花で、県内1位の生産量、約450万本出荷されています。



ヘリオトロープ
(鉢花/出荷時期:1月～4月)

花ことば
献身的な愛、夢中

バニラに似た香りがする花で、約5千鉢出荷されています。



▲弁財ヶ浜の植樹。計14本のユリノキを植えました



▲泉福寺展であいさいつする柳原校区会長。会場から溢れるほど参加者が集まりました

地域の話題

清田校区

「歴史」「自然」、地域の宝を次の世代へと

地域の歴史や自然を再認識しよう

活発な活動を行っている

清田校区「コミュニティ協議会からお便りが届きました。



清田校区では、地域の「宝」を掘り起こし、受け継いでいくため、平成27年度に2つの大きな事業を実施しました。

「泉福寺展」地域の歴史を懐かしむ、理解する

平成27年12月6日（日）、清田市民館で「泉福寺展」を開催し、地域住民など約100名が参加しました。

渥美半島でも有数の歴史を持つ泉福寺の歴史と文化的価値を知ること、地域の貴重な「宝」を後世に伝えるために企画したものです。

会場には、昭和37年に焼失した本堂が写る貴重な写真や寺の中の様子に分かる「泉福寺平面図」などの資料を展示しました。また、市の学芸員が寺と地域のかかわりについて講座を行いました。その後、実際に現地へ



移動し、参道や泉福寺を歩きながら、説明会を実施しました。

参加者からは、「懐かしい。子どもどものころに訪れたが詳しいことは知らなかった」「貴重な歴史や寺を守りたい」といった意見が出ていました。



▲現地説明会。事前の参道整備には、地域の方々が倒木を除去するなど汗を流しました

これからも、地域にある文化財の価値を再認識し、まちづくりに生かしていきたいと思えます。

地域の憩いの場「^{べざいがはま}弁財ヶ浜」
これからも人々が集まるために

平成27年12月22日（火）、弁財ヶ浜

でユリノキの植樹を行いました。昨年度、市の市民提案型委託事業を申請し採択され、今年度、環境と景観整備事業として取り組んできたものです。

弁財ヶ浜は憩いの場として昔から親しまれてきました。しかし、新しく堤防道路ができる旧道路が使われなくなり、木々がうっそうとするなど環境整備が課題となりました。

そこで、住民が一丸となり、定期的に清掃を続け、活動を通じて地域の人たちにも関心を持ってもらいました。また、周辺住民や観光客の津波避難用に、避難路も整備しました。

そして、今回のユリノキの植樹には、自治会役員、老人会などの協力の下、清田小学校を卒業する6年生とその家族が参加しました。

自らがかわることで地域に関心を持つ子どもが増え、地域の宝が次の世代へと継承されていくことを願っています。





市民活動を応援するページ



市民活動紹介

手づくり布えほん・ハンドの会

絵本の世界を布の温もりで届けたい

「手づくり布えほん・ハンドの会」は、布の持つ温もりと絵本の豊かな世界を子どもたちに届けようと、布絵本や絵本キャラクターのマスコットづくりをしています。

完成した作品は、毎年、田原市中央図書館のお誕生日会で、市図書館3館と市内小学校の学校図書館に寄贈しています。

会の始まりは、1999年（平成11年）、衣笠市民館主催で行われた三世代子育て講演会に、ゲストでお呼びした布絵本作家・渡辺順子さんのお話に、メンバーが感銘したことからです。「私たちも作ろう!」と、布絵本づくりは、その年の11月から始まりました。

それから17年。地道に心を込めて作った多くの作品は、多くの子どもたちに愛されています。

毎月1回、第3火曜日の午前10時から正午、田原市中央図書館のグループ研究室で作業をしています。手作り大好き!という方、一緒にちくちくしませんか?



▲「ぐりとぐら」のマスコット



▲マスコット作りの様子

お問い合わせ 代表 浪崎 ☎ 23 局 3872

支援制度活用

平成28年度田原市の市民協働まちづくり事業補助金

応募団体による公開プレゼンテーションを行います

「市民協働まちづくり事業補助金制度」は、協働によるまちづくりの担い手となる市民活動団体の公益活動を支援する制度です。活動の自立を促し、目的を達成するため、市民活動団体が実施する事業に対して必要経費の一部を補助します。

地域で抱える社会的課題の解決に向けて、公共性および公益性が高いと認められる、もしくはそうした期待がされる事業が対象となります。

提案された事業は、書類審査のほか、公開で行われる応募団体のプレゼンテーションでも審査されます。市民活動に取り組んでいる方や興味のある方は、ぜひご聴講ください。



市民協働まちづくり事業補助金 公開プレゼンテーション

日時 4 / 14 (木) 18:00 ~

場所 田原文化会館 201・202 会議室

申し込み 不要。直接、会場にお越しください。

お問い合わせ

市民協働課

☎ 23 局 3504 ☎ 23 局 0180 ✉ kyoudou@city.tahara.aichi.jp

田原市民活動支援センター

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/>

☎ 22 局 1111 (内線 812) ※開設時間のみ

☎ 23 局 0180 ✉ shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp

メールマガジン配信中です!

センターから市民活動に関する新鮮な情報を随時、お届けします。配信ご希望の方は、メール本文に「メール配信希望」とご記入の上、左記センターアドレスへメール送信ください。





スクールレポート

SCHOOL REPORT 90

学校生活の
一コマを紹介

今回は小学校での「渡り蝶の飛来」と中学校での「文化祭・資源回収」の様子をお知らせします。

●学校教育課 ☎ 23局 3679

六連小学校 「渡り蝶の飛来」

多くのアサギマダラがやってくる学校に

六連小学校では、昨年10月、フジバカマやヒヨドリバナという野草を校庭に植えました。季節によって住む場所を南北へ移動する渡り蝶であるアサギマダラの飛来を期待しての移植です。とても人なつっこい蝶でもあり、子どもたちとアサギマダラが触れ合えるように、マーキングの講習会も行いました。

さて、フジバカマやヒヨドリバナの花は咲いたのですが、アサギマダラはなかなかやってきません。「まだまだ蝶たちには、ここに花があるとは知られていないのかもしれない」と、あきらめかけた10月14日。ついにやってきました。子どもたちが、掃除中に花にとまっている蝶を見つけました。優雅に子どもたちの周りを飛んでから、近くの森へ去っていきました。

この秋は、数頭しか来ませんでしたでしたが、確実に飛んでくるのが分かりました。今年の秋にはさらに花を増やして、もっと多くのアサギマダラに羽を休めてほしいと思っています。子どもたちの周りを蝶が飛ぶ、そんな学校になれば嬉しいです。



●飛来したアサギマダラ



●マーキング講習会の様子

泉中学校 「文化祭・資源回収」

地域の中で「ひとなる」生徒



●文化祭での合唱の様子



●資源回収の様子

泉中学校では11月に文化祭と資源回収が行われました。文化祭の後、3年生の生徒が書いた感想文をご紹介します。泉中の生徒の先生や仲間、地区の方や、保護者の方と関わり合いながら、成長している姿が伝わってきます。

「『3年生の合唱、聴いていたら、泣けてきそうでした。感動しました』と後輩に言われ、驚きました。本当に史上最高の文化祭だったと思います。でも、史上最高の文化祭は、私たち3年生だけでは創り上げることはできません。屋台を出してくださったPTAの皆様、保護者の皆様、先生方、地域の方々の協力もあってこそだと思えます。そういう意味では私たちがただ単に感謝される側ではありません。本当は私たちがみなさんに感謝する側だということを、忘れてはいけません。次の資源回収は、3年生が後輩を引っ張っていく機会だと思えます。来年の泉中みんなの目標になれるようがんばりたいです」

2月14日(日)

キャベリンを
よろしくね!



▲インタビューを受ける「キャベリン」をデザインした藤原茉純さん(豊川市)

サンテキャベツまつりが開園20周年を記念してサンテパルクたはらで開催されました。野菜の重さ当てゲームや、キャベツを使ったピザの振る舞いなどがあり、多くの人で賑わいました。「キャベツウ」の妹「キャベリン」のお披露目もされました。

2月16日(火)

感謝を込めて
贈るブーケ



▲東部・高松・中山・清田小学校で行われたブーケのプレゼント。写真は、照れくさそうにブーケを渡す高松小学校の4年生の児童たち

成人の半分の年齢、10歳を迎えたことを記念して1/2成人式が行われ、小学4年生の児童がブーケを作成し、手紙などと一緒に家族へ手渡しました。日ごろの感謝を伝えるとともに、花とのふれあいや花を贈る喜びを経験するよい機会となりました。

2月21日(日)

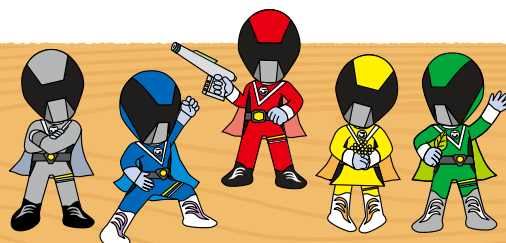
東三河のイイモノ
駅前到大集合!



▲出展者との会話も軽トラ市の楽しみの一つです

あつまるタウン田原主催の街なか駅前軽トラ市が、三河田原駅西側広場と駅周辺で開催され、約60台の軽トラが東三河から集結しました。来場者たちは、東三河の地元グルメを堪能したり、新鮮な野菜や花などを買ったり、日曜の朝を楽しんでいました。

環境戦隊たはらエコレンジャー 環境けいじばん 5



田原産 100%菜種油 「たはらっこ」

「たはらっこ」は、菜の花エコプロジェクトに取り組む NPO 法人田原菜の花エコネットワークが、丹精込めて育てた菜種（搾油用菜の花の種）を昔ながらの圧搾法で搾って作った田原市の特産品の一つです。今回は、「たはらっこ」のおススメポイントをご紹介します。

●原料は「ななしきぶ」

使用されているのは、遺伝子組み換えをしていない安全・安心な「ななしきぶ」という品種です。



▲遊休農地に咲く「ななしきぶ」

●こだわりの製造方法

市販されている菜種油の中には、薬品や添加物などを使用して油を搾っているものもありますが、「たはらっこ」はゆっ



▲刈り取った菜種の選別と乾燥作業
くり時間と手間をかけて、力だけで搾る圧搾法によって丁寧に作っています。

●美味しくて体にもいい菜種油

「たはらっこ」は、菜種の自然な風味を生かしているため、香りが良く、また、酸化もしにくいいため天ぷらなどの揚げ物に数回使用できます。このほ



▲「たはらっこ」を使ったドレッシングをかけたサラダ
かに、ドレッシングや野菜炒めなどの料理にも使用できます。さらに「たはらっこ」には、悪玉コレステロールを下げてくれるオレイン酸、リノレン酸が多く含まれています。



●販売について

「たはらっこ」は、NPO 法人田原菜の花エコネットワークが出演するイベント（田原市民まつり、農業者のつどい、緑花まつりなど）で販売されるほか、サンテパークたはら、産直市場、道の駅などでも販売されています。詳しくは、NPO 法人田原菜の花エコネットワーク事務所（☎ 45 局 3744 / 月曜・金曜 / 午前 10 時～午後 3 時）へお問い合わせください。

●廃食用油は回収ボックスへ

菜の花エコプロジェクトの取り組みとして「廃食用油のリサイクル」があります。市内 10 カ所の公共施設および協力店舗にて家庭から出た廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料にリサイクル利用しています。



▲市役所北庁舎入口の回収ボックス

▶環境政策課 ☎ 23 局 7401

設楽町の保育園児が早春の田原市へ

愛知県設楽町(平成2年姉妹都市提携)



●一足早い春を訪ねて

1月22日(金)に設楽町の津具保育園と名倉保育園の年中・年長園児20名が田原市を訪れました。

田原市に到着した園児たちは、サンテパークたはらで遊んだ後、大久保町の農園で楽しみにしていたイチゴ狩りを体験し、真っ赤に熟した大きなイチゴを「甘くておいしい!」とほお張っていました。



その後、園児たちは、加治町の菜の花畑に移動し、一足早い春を満喫しました。菜の花畑を元気に駆け回る姿



を、菜の花を管理しているNPO法人田原菜の花エコネットワークの皆さんも笑顔で見守っていました。

この時期ならではのキャベツ畑やブロッコリー畑の美しい風景。これも豊川用水の恩恵を受けているおかげです。これからも常に感謝の気持ちを忘れずに、上下流域の交流を続けていきたいです。

◆菜の花交流のきっかけ

平成14年度に農業委員会が一足早い春を届けようと、津具保育園に菜の花をプレゼントしたことがきっかけです。隔年で相互訪問し、園児が田原市を訪れる年はイチゴ狩り、ミカン狩り、菜の花摘みなどを行ってきました。平成22年の設楽町・田原市交流20周年記念を契機に、津具保育園だけでなく、設楽町内の4保育園から毎年2園ずつ受け入れる事業として行っています。

▶政策推進課 ☎ 23局3507

みんなで取り組む防災・減災

しろちゃん

防災知恵袋

津波避難のポイント

24

今 回は、津波避難のポイントについてご説明します。

◆揺れを感じたら

ただちに海岸や河川から離れ、高台など安全な場所に避難しましょう。

◆津波警報などが発表されたら

防災行政無線が作動し、市内全域に一斉放送します。なお、海岸付近にあるスピーカーは、音声に加え赤色回転灯が点灯してお知らせします。すぐに海岸などから離れ、急いで高台などに避難しましょう。

◆注意点

●「地震の揺れの大きさ＝津波の大きさ」ではありません。揺れが小さくても津波が起きることがあります。

●津波は繰り返し押し寄せてきます。また、必ずしも第1波が高いとは限りません。警報などが解除されるまで、低い場所や海岸には近づかないようにしましょう。

●南三陸町レポート

報告者 齊藤 剛

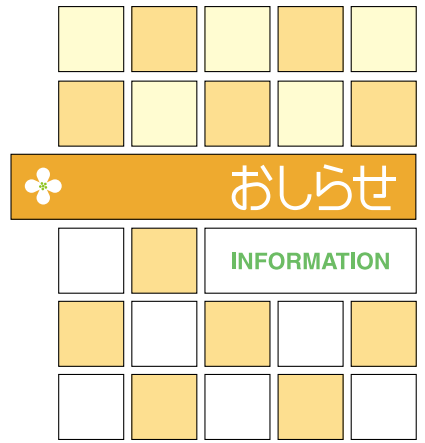
私は、田原市から派遣職員として宮城県の南三陸町環境対策課に昨年4月に着任しました。主に環境関連補助金事務や斎苑管理などを担当しています。

震災発生から5年が過ぎ、高台移転用の盛土造成が進み、町の風景は大きく様変わりしています。復興事業は着実に進んでいます。仮設住宅に入居の方も多く、復興の道のりはまだ道半ばです。時がたつにつれ、震災の話題に触れる機会が減ったと思いますが、被災地のことを忘れず、できることを継続して支援することが重要だと実感しました。市民の皆さんも、復興が進む南三陸町にぜひお越しください。



●盛土造成が進む防災対策庁舎(写真左)周辺

▼防災対策課 ☎ 23局3548



募集

WANTED

東三河生涯学習連携講座 受講者

東三河各地を歩いて回ることで、地域それぞれの魅力を発見します。
▼講座名「歩いて探そう東三河の宝 春編」▼日時/テーマ/場所 表のとおり ▼定員 50名(申し込み多数の場合は抽選/結果は全員に郵送) ▼受講料 無料 ▼申し込み 4月25日(月)までに電話にて ▼その他 秋に自然と史跡をテーマに講座を開催予定です。定員を超えて申し込みがあった場合、今回の講座を受講していない方を優先します。

	日時	テーマ	場所
1	5月13日(金) 午前10時～午後2時	旧田口線沿線を歩こう (清崎駅～三河田口駅)	設楽町
2	5月20日(金) 午前10時～午後0時 30分	旧東海道赤坂宿を歩く～御油の松並木から旅籠「大橋屋」を訪ねて～	豊川市
3	6月10日(金) 午前10時～午後0時 30分	作手の湿原ラン科植物観察会	新城市
4	6月17日(金) 午後3時～5時	旧東海道吉田宿・吉田城を歩く	豊橋市

▼文化生涯学習課

☎ 23局 3635 FAX 22局 3811

生活

春の全国交通安全運動 4月6日(水)～15日(金)

春風が心地よいこの時期は、新入学児童の登下校が始まったり、高齢者の朝夕の散歩や外出の機会が増えたりすることから、子どもや高齢者が犠牲となる交通事故が

心配されます。

また、気候がよくなり、その開放感から飲酒運転も心配されます。ドライバーの皆さん、飲酒運転をなくし、子どもや高齢者を見かけたら、思いやりのある運転で交通事故をなくしましょう。

●運動の基本

子どもと高齢者を交通事故から守ろう

●取り組み重点

- 自転車の安全利用を進めよう
- 後部座席を含めたすべての座席でシートベルトとチャイルドシートを正しく着用しよう
- 飲酒運転を根絶しよう

▼市民協働課

☎ 23局 3504 FAX 23局 0180

春の安全なまちづくり県民運動 4月1日(金)～10日(日)

4月は気候も良くなり気持ちも開放的となる時期です。この機会に、ご自宅などの防犯対策がしつかりできているか確認し、万全の態勢を日常化できるように習慣づけていくことが大切です。

また、新入学児童・園児は、身を守る力が弱いだけに、保護者をはじめ

め周りの大人の目で見守っていく必要があります。地域ぐるみの防犯活動で、安心して暮らせるまちづくりをめざしましょう。

●運動の重点

- 住宅を対象とした侵入盗の防止(年間取組事項)
- 特殊詐欺の被害防止
- 自動車盗の防止
- 子どもと女性の犯罪被害防止

▼市民協働課

☎ 23局 3504 FAX 23局 0180

投稿作品を募集中!!

広報たはらでは、市民の皆さんと一緒に紙面づくりを行うため、投稿コーナーに下記のテーマを募集しています。ぜひ、あなたの投稿作品をお寄せください。

【みんな注目】キャラ弁や風景などの写真と100字程度の紹介文

【ごきげんスマイル】3歳以下のお子さんの写真と氏名・誕生日・年齢

【プラス(ワン)ファミリー】ペットの写真と名前・種別・年齢

【応募方法】テーマ・内容と住所・氏名・年齢・電話番号を記入のうえ、Eメールまたは郵送にて。応募者多数の場合は、抽選で掲載します。

【応募先】広報秘書課 ☎ 22局 0138 ☎ 441-3492 住所不要
✉ koho@city.tahara.aichi.jp

堆肥散布による悪臭などの発生防止にご協力を

これから夏場にかけて、農地への堆肥散布の時期を迎えます。

堆肥を散布したとき、近隣の住宅や観光施設などから、悪臭やハエなどに関する苦情を招くことがあります。平成27年は、悪臭苦情が約20件寄せられました。

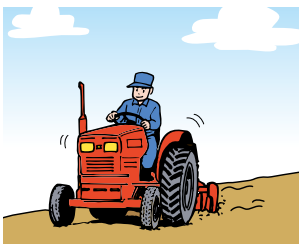
堆肥を使用する際には次の点に注意し、生活環境の保全と水質汚濁などの防止にご協力ください。

◆完熟堆肥の使用

十分発酵させ悪臭を伴わない完熟堆肥を使用しましょう。

◆散布後、直ちに鋤き込む

散布後、雨天により鋤き込みできないことのないよう、天候に注意しましょう。



◆生活環境に配慮を

特に住居や観光施設に近い農地に散布する場合は、生活環境に十分配慮し、悪臭はもちろんのこと、ハエなどの害虫、粉じんや汚水が発生しないようにしましょう。

◆過剰な堆肥散布をしない

地下水汚染の原因にもなる過剰な堆肥散布はやめましょう。

▼農政課

☎23局3517 FAX 22局3817

▼環境政策課

☎23局3541 FAX 23局0180

「コミュニティバス」定期券の種類が増えます。

昨年10月、再編運行の開始に伴い「定期券・回数券」を導入し、今回、バス利用の利便性を向上するため、定期券の種類を増やし、1カ月〜6カ月の複数月の定期券を購入することができるようになりました。

詳しくは、田原市ホームページをご覧ください。

▼適用日 4月1日（金）〜 販売開始 3月15日（火）

▼販売金額 ①路線単独定期券 3000円（1カ月分） 1万8000円（6カ月分）

②路線共通定期券 5000円（1カ月分） 3万円（6カ月分）

▼販売場所 経営企画課・赤羽根市民センター・渥美支所地域課（市役所執務時間中）

運行事業者の事務所 ▼対象路線 田原市コミュニティバス路線※八王子線を除く

▼経営企画課（田原市地域公共交通会議事務局）

☎27局8603 FAX 23局0180

http://www.city.taharaich.jp/



第十回特別弔慰金の支給

戦没者などの死亡当時の遺族で、平成27年4月1日において、「恩給法による公務扶助料」や「戦傷病者戦没者遺族等援護法による遺族年金」などを受け取る方（戦没者の妻や父母など）

がいない場合、次の順番によるご遺族お一人に特別弔慰金が支給されます。



◆支給順位

①平成27年4月1日までに戦傷病者戦没者遺族等援護法による弔慰金の受給権を取得した方

②戦没者などの子

③戦没者などの父母・孫・祖父母・兄弟姉妹

※戦没者などの死亡当時、生計関係を有していることなどの要件を満たしているかどうかにより、順番が入れ替わります。

④上記①から③以外の戦没者などの三親等内の親族（甥、姪など）

※戦没者などの死亡時まで引き続き1年以上生計関係を有していた方に限られます。

◆支給内容

額面25万円、5年償還の記名国債

◆申請手続

平成30年4月2日までに地域福祉課へ申請してください。

▼厚生労働省「特別弔慰金」ホームページ

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000078440.html

▼地域福祉課 ☎23局3512

◆お詫びと訂正

広報たはら平成28年2月15日号10頁「表彰」に誤りがありました。河合博一さんに授与されたのは、農林水産大臣表彰でした。お詫びして訂正いたします。

歴史探訪

クラブ! 其の170

History Inquiry Club



文化生涯学習課 ☎ 22局 1720
(博物館) FAX 22局 2028

変わった形の道具

田原中部小学校の隣、田原城桜門正面にある田原市民俗資料館。江戸時代以降の民具が展示されています。そこへ訪れ、展示品を見ていた際に、少し変わった形の道具が目にとまりました。高さ1.5mほどで、いかりに似た形をしており、先端には金属の刃先が付けられています。このような形の道具を当時の人は何のため、どのようにして使用したのでしょうか。



●犁(牛耕用)
田原市民俗資料館蔵

伝来し、人力だけで農作業を行うのではなく、家畜を利用した牛耕を行うようになっていきます。特に、明治以降には田原でも家畜が多く飼育され、人力では大変であった開墾が牛耕に

よって進んでいきます。戦後、広大な面積の農地を耕す際に、耕運機、トラクターなどの農業機械の使用が普及し、家畜を利用しなくなっていきました。

これは、田畑を耕すために使用された犁からうきという農具です。人が使用するのではなく、家畜である牛馬に引かせ、歩いて進む力を利用して田畑を耕しました。田原市民俗資料館に展示してある犁は、明治中ごろから昭和の中ごろまで実際に使用されていたものです。

土を耕したり、掘ったりする道具は、縄文時代には使用されてきました。初めてのころは木や石で作った道具でした。そして、弥生時代中期から、鉄の農具が使用されるようになっていきます。材料が木や石から鉄になったため、硬い土でも耕しやすくなりました。その後、飛鳥時代には大陸から日本に犁が

よって進んでいきます。戦後、広大な面積の農地を耕す際に、耕運機、トラクターなどの農業機械の使用が普及し、家畜を利用しなくなっていきました。

芦ヶ池北側の古墳時代を中心とした山崎遺跡では、田原市で1番古い古墳時代後期(6〜7世紀)の農具が見つかっています。土を掘ったり、耕したりする鋤くわ、鋤すきの先が分かれ土をならす杵えがり、運搬のために使用されたと思われる天秤棒などが発掘調査により発見されました。これらの農具の一部は、形が少し変化していますが、今でも使用されているものもあります。

田原市民俗資料館で、犁などの昔の道具を見ると、当時の人々がどのように道具を改良し、工夫して使用していたかが分かります。

(清水)

●牛耕の様子(昭和前半ごろ)／渥美郷土資料館蔵



今月の「表紙」

▼広報たはらは4月からリニューアルし、同時に月1回発行となるため、15日号の発行は今号が最後となります。広報担当としては、大きな節目。卒業証書を手を目を輝かせる福江高校卒業生の皆さんや、免々田川沿いの咲き誇る花々を見て、皆さんに親しまれる紙面づくりへの決意を新たにしました。(H)

【表紙の写真】免々田川の風景と福江高校今年度卒業生(福江町)